

## チャド：マハディンさんが釈放される！

チャドのマハディンさんは、国の不正を暴露したことがきっかけで逮捕され、1年8カ月も勾留されてきましたが、この4月下旬、ようやく無罪が決まり、釈放されました。

マハディンさんは2016年9月、政府関係者による公金の不正使用を告発する動画をフェイスブックに投稿して逮捕されました。その後、治安維持法違反ほか複数の重罪を犯した容疑で起訴され、終身刑を受けるおそれがありました。ところが今年3月、検察側はこれらの容疑を取り消し、軽微な名誉棄損の容疑に変えて、起訴をしなめました。そして4月下旬、裁判所は「十分な証拠がない」として名誉毀損容疑を認めず、マハディンさんに無罪を言い渡しました。

アムネスティは、昨年のライティングマラソンでマハディンさんの釈放に向けた支援を呼びかけ、69万人がチャド政府に彼の釈放を求める手紙を送りました。世界中の人たちのこの訴えが、彼の釈放を後押ししたに違いありません。

ご協力いただいた皆さん、ありがとうございます！



## ホンジュラス：特別検察官事務所を新設

ホンジュラスの検事総長は3月14日、社会的活動をする人たちを反社会的な脅威や不当行為から保護する役割を担う特別検察官事務所を新設しました。その主要な職務は、当局や反社会的勢力を監視し、人権擁護活動家やジャーナリスト、ソーシャル・コミュニケーターらに対する不当な圧力や犯罪行為の動きがあれば、捜査し、摘発・起訴することです。

ホンジュラスの先住民族レンカの人びとは、土地や自然環境を破壊するダム建設や土地開発に関わる企業や関係機関に対して、開発の中止や変更を求めて果敢に立ち向かってきました。しかし、常に組織的な誹謗中傷や脅迫、さらには襲撃などにさらされてきました。

アムネスティは、昨年のライティングマラソンで、レンカの人びとやその支援者への脅威や圧力の真相究明、警察の徹底的な捜査と加害者の逮捕を強く求めてきました。そんな中での特別検察官事務所の設置は、大きな意味があり、私たちの活動の成果とも言えます。



レンカ先住民運動団体が、ライティングマラソンで受け取ったメッセージの山

特別検察官は、他の部局、NGO、市民社会グループなどと密接に連携して、加害者の裁きや真相究明に道を開く役割を担います。新機関の活動により、保護活動をする人びとが1日も早く、脅威や暴力をおそれることなく活動できるようになることが期待されています。

## イスラエル：ガザ学生 片足切断を免れる

ヨウセフ・アル=クロンズさん（20才）は、デモを取材中に両足を銃撃され、手術可能な病院への移動をめぐるイスラエル側の対応の遅れで、片脚を失いましたが、もう一方はかろうじて手術が間に合い、切断を免れました。

去る3月30日は、パレスチナが自分たちの土地をイスラエルに収奪された「土地の日」とする日で、パレスチナの人びとは、パレスチナ自治区ガザ地区のイスラエル境界付近でデモを行いました。その日、記者であるアル=クロンズさんは、この抗議デモを取材し、その最中、イスラエル軍の実弾を両脚に受けました。対応ができないガザ市内の病院にヨルダン川西岸地区内にある病院を紹介されましたが、イスラエル軍事務所は、「デモ参加者には、越境を認めるわけにはいかない」として、領内を通過を認めなかったのです。イスラエル最高裁にも訴えましたが、時間切れで特に急を要した片脚を切断せざるを得なくなりました。

さらに、もう一方の脚も猶予がないと言われていましたが、その後間もなく西岸地区への移動を認められ、4月22日、ラマラの病院で手術を受けることができたのです。手術は成功裏に終わり、残された片足の切断を免れることができました。

## ミャンマー：牧師2人を釈放

根も葉もない容疑で1年半も拘束されていた牧師2人が、大統領の恩赦で釈放されました。

ドゥンドーナウンラッさんとランジョーガンセンさんは2016年10月、ジャーナリスト数人を軍の空爆を受けたとされるモウンコー町を取材するにあたり、その手はずを整えました。その手配に問題があるとされた2人は、2カ月後の12月に逮捕されました。容疑は、少数民族の武装集団への支援を禁止する憲法違反や不法結社法違反などですが、いずれも根も葉もない容疑でした。

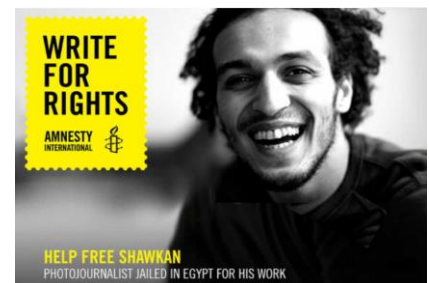
この不当な勾留に対して、アムネスティは、UA（緊急行動）で2人の早期釈放を訴えてきましたので、今回の釈放は、遅きに失するとはいえ、朗報となりました。

## エジプト：シャウカンさん世界報道自由賞受賞

フリーランスの報道カメラマン、モハメッド・アブザイド（通称シャウカン）さんは4月23日、報道の自由を守り、推進するジャーナリストらに贈られるユネスコの「ギョレモ・カノ世界報道自由賞」の今年を受賞者に選ばれました。ユネスコの MARIA・レッサ審査員長は、「モハメッド・アブザイドさんはこれまで、表現の自由の重要性を勇氣ある行動と抵抗の中で身をもって示してきた。今回の授与は、その取り組みを高く評価するものだ」と述べました。

一方、エジプトの外務大臣は、「ユネスコが、警官や市民に対する暴力や殺人などの容疑に問われている者を評価するのは、

極めて遺憾だ」として、ユネスコを批判しました。



アブザイドさんは、ロンドンの写真エージェンシー、デモティックス社の仕事でデモを撮影中に、ムスリム同胞団の指導者らとともに拘束されました。他の外国人ジャーナリストたちは即日釈放されましたが、アブザイドさんは現在も拘束されたままです。デモティックス社が検察当局に対し、「アブザイドさんは当社の依頼で取材していた」と説明しましたが、当局はその事実を無視してきました。

アブザイドさんは現在、9つの罪で起訴されています。有罪になれば、死刑判決を受ける危険性もあります。これまで UA などでも即時、無条件釈放を訴えてきましたが、引き続き、訴えを続けていきます。

### UA ニュース

発行：アムネスティ・インターナショナル日本  
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-12-14 晴花ビル7F  
TEL: 03-3518-6777 FAX: 03-3518-6778  
E-mail: uaoffice@amnesty.or.jp

UA年会費 3000円  
郵便振替 00120-9-133251  
加入者名 公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本

# UA ニュース



[www.amnesty.or.jp](http://www.amnesty.or.jp)

アムネスティ・インターナショナル日本 UA センター

発行 2018年5月25日

---